

レディー

陶 智子さん	富山短大助教授
高屋喜久子さん	金沢学院大助教授
萩原扶未子さん	G & S社長

文部科学省の2006年度学校基本調査速報によると、社会人大学院生は過去最高の4万9千人となりました。統計を取り始めた6年前から増え続けており、増加率では

社会人大学生に負けぬ勢いで、何が大人を勉強に駆り立てているのでしょうか。働きながら大学院生活を体験した3人の女性に話し合ってもらいました。

大人の勉強 社会人大大学院生になって

難しい両立

萩原 現役時代、受験に失敗して、大学は出ていません。「浪人したら婿養子がないやろ」と親に言われて、それもそうかとあきらめた(笑)。でも起業家として講演する機会が増えて、単なる体験談ではなく本当に役に立つ話をするには学問的な裏付けが必要だと痛感したのね。理論を深め、伝える方法も学びたくて大学院に入りました。

8年がかかりで修了



高屋 そうですね。私も金沢美大の大学院に入った

陶 当初は福井でデザイン事務所を開いてたから、高屋道路飛ばして行ったり来たたり文献読むのはお風呂で。

陶 時間と費用と仕事上の責任を考えると、働きながら学位を取るのには苦しいですね。短大講師をしながら通った図書館情報大の大学院では同期に社会人大大学院生が二十人ほどいたけれど、博士号を取ったのは私を含めて三人。私は、小笠原流礼法の伝授がどう行われたかを情報学の視点で研究したいという目的があったから続けられました。

セテカ後、2002年卒。設立。02年卒。金沢大を卒業。博士(芸術)。金沢大大学院博士(芸術)。

か。いかに時間を作るかが勝負ですね。

得たものは 人生の指針

勉強したい

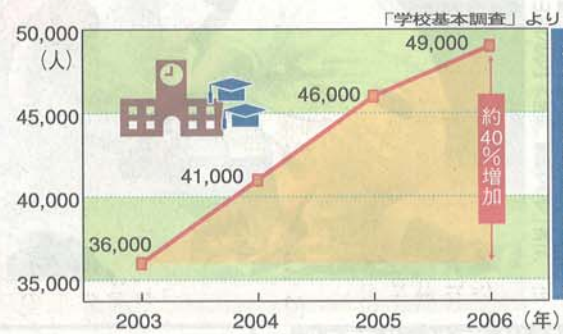
高屋 大学院に入ったのは仕事をすればするほど、自分を磨く必要があると切実に感じたから。それに私の仕事のインターストリアルデザイナーと言っても何をしているのか分かってもらえないことが多くって、形だけではなく、デザイン思想やコンセプトを言葉で表現する方法を院で勉強したかった。そう思って

学問的裏付け必要

入ったけど二回はあきらめて、最終的に八年がかかりで博士を取ったんです。**陶** 博士後期課程って最終



いて予備審査を通ったところで、石川県デザインセンターから一カ月、ドイツに派遣されました。帰ってきたら「研究をほっぽらかして」なんて言われる。こんな調子じゃ審査に通らないだろうと思って、やめちゃった。実務で頑張ればいって(笑)。でも大学で教え始めると、やっぱり知識が必要で、論文を仕上げたんです。**陶** 社会人にはいろいろ



女性の目

大学院の修士、博士、専門職学位の各課程に在籍する社会人の合計数は年々増え続けている。この4年間だけで、約40%も増えた

得たもの

萩原 女性特有の考え方や環境をいかに生かすかは、女性起業家の悩みの一つです。でも「ジェンダー」の視点を取り入れたら、この問題に解決策が見えてくる。そのことをほかの女性起業家にも伝える方法を学べる場として、まず南山大学院を選びました。名古屋までの通学が大変で、

とって、物理的な問題は切実。今は大学院も態勢を整えていますよ。例えば金沢

「思いが続くか」



セライト教室があるから、通学時間が短縮できる。**陶** 図書館情報大も東京

を愛けられたことが幸運で、可能性がひろげられることを知った。生きる方向性を得たんです。

陶 大学院を終えて学位を得たことは確かにうれいことですが、それよりも、自分がかき詰まっていた本質が何なのかを考えたことが一番の収穫です。指導教授からは「あなたの思いがどこまで続くかが勝負です」と言われました。大学院を終えた今、本当にその通りだったと感じています。